令和2年度決算の概要

地方公会計制度に基づく財務諸表などを活用した一般会計決算を2日間集中審査

一般会計決算は、17名で構成する決算審査特別委員会を設置し、審査しました。

また、特別会計決算は市民厚生委員会、企業会計方式となった下水道事業会計決算は建設環境委員会で審査し、それぞれ原案のとおり認定されました。

一般会計決算の審査から

コロナ禍において生活に困窮された方への支援について

問　市としての取り組みを伺う。

答　自立相談支援や住居確保給付金を支給。これまで対象だった離職や廃業で無収入となった方のほか、緊急事態宣言発令時の休業等による減収で住居を失うおそれが生じる方への支援を拡大した。住居確保給付金は条件を大幅に緩和、相談支援などを月1回行えば条件を満たすものとした。受給者には電話などで一人一人の困窮状態を把握、適切な支援を心がけた。

多言語AIチャットボット等に関する実証実験について

問　4か国語にて行われたとのことだが、利用者の反応等を伺う。

答　令和2年度末の利用は579件で、このうち約90%が日本語利用だった。令和3年1月にAIチャットボット、AIスピーカーの利用実態を把握するためユーザーアンケートを実施。言語の追加希望はなかったが、積極的な広報や外国語での災害対策や子育ての情報発信を求める声があった。

庁舎内設備の修繕について

問　修繕料1563万円の概要を伺う。

答　本庁舎や議場の出入口、だれでもトイレなどの自動ドア計18か所を一斉修繕した。設置から10年以上経過し、推奨部品交換年数も5年から7年であるため開閉装置や人感センサーを全て交換した。予算額1428万円からは増加したが、計画的修繕以外にも25件実施しており、特に本庁舎1棟4階の空調室外機修繕220万円は緊急対応のため予備費で充当、予算額を上回る理由となった。

SMSを活用した市税収納強化について

問　SMS（ショートメッセージサービス）活用の手応えや効果を伺う。

答　令和2年8月から運用開始。895件の納税催告メッセージを送信し、その88%で相手方携帯電話への到達を確認、電話催告より効果的に伝達したと考える。送信後約2週間以内で電話連絡や来庁、連絡はないが納付された等の反応が186件、到達件数789件の24%であり、催告の効果と思われる納付は国民健康保険税など他税も含め193万1310円あった。

福生市事業継続応援金の給付について

問　給付決定者の事業業態の内訳と割合を伺う。

答　飲食業が524件で29%、サービス業が361件で20%、建設業関係が307件で17%、卸売・小売業が235件で13%、理美容業が163件で9%、製造業が72件で4%、教育・学習支援業が36件で2%、不動産業が36件で2%、その他が72件で4%となっており、飲食業やサービス業が約半数を占める結果となっている。

高齢者インフルエンザ予防接種について

問　接種者は前年度からどの程度増加したか。

答　令和2年度の接種者数は9211人で、元年度から3704人、67%の増。接種率は60・4%で23・9ポイント増。新型コロナウイルス感染症との同時流行を見据え、重症化リスクの高い高齢者等に対し、東京都の特別補助事業補助金を活用して接種費用を全額公費負担し、高齢者等の接種率向上を図った。

高齢者カタログギフト配布事業について

問　事業の成果を伺う。

答　コロナ禍で外出自粛が長期化した高齢者に心身の健康維持を図る目的で実施した。事業指標の目標値はギフト申込み率94%に対し実績値は90・3%。申込みがない方へは戸別訪問を実施、不安を抱える方や日頃から閉じこもりがちな方にもお会いでき、地域包括支援センターや介護予防事業等を案内したほか、困難ケースとして対応を検討していた方から連絡が来て支援につながったなどの成果もあった。

子育て世帯応援キャッシュバック事業について

問　事業の経緯と成果を伺う。

答　令和2年の夏頃、コロナ禍で子育て世帯が安心できる生活と打撃を受ける市内事業者を同時に支援するため、即効性のある事業として企画した。国の地方創生臨時交付金の用途の広さを生かし、スピード感を重視してレシートを活用した事業とした。有効期間はあえて9月から2か月間の短期とし、広報も強化した結果、対象者の約9割に御利用いただき、一定の支援になったと考える。

ふっさっ子の広場事業について

問　学童クラブとの一体型モデル事業の評価を伺う。

答　学童クラブとふっさっ子の広場に交流機会を設け、広場のプログラムに学童クラブの児童も参加できる。事業開始は令和2年4月だが、コロナの影響で当初は事業を行えず、対策の上7月以降走り方教室やプログラミング体験など様々な事業を実施。児童、保護者からは大変好評で、家庭の状況等で児童の交流が限定されずに学びの場や体験の場を広げられたことは高く評価できる。

東福生駅調査委託について

問　調査内容とその結果について伺う。

答　東福生駅がバリアフリー法に基づく移動等円滑化の促進に関する基本方針に定める駅としてバリアフリー化へ向けた調査を行うもので、JR東日本八王子支社と協定を結び実施した。既存構造物や駅周辺の調査、エレベーターや自由通路等の配置及び概略検討を行い、調査結果としては、既存跨線橋の東西及びホームにエレベーターを設置する案と自由通路を新設する案の2つが出ている。

成人式における新型コロナウイルス感染防止対策について

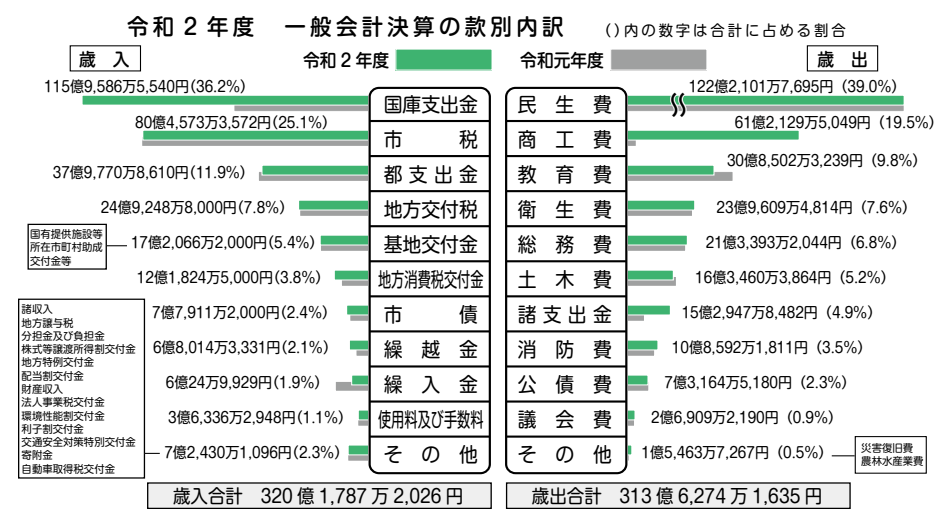
問　実施に際しどのような検討を行い、感染防止対策を行ったのかを伺う。

答　市民会館の収容人数は、国・都のイベント開催基準を満たし、来賓者数縮小等で2席に1人の座席を確保。また、マスク着用、検温、消毒、アクリル板設置、換気の徹底等、一般的な対策のほか、受付の分散や座席の把握、式典の縮小、分散退館、記念撮影スポット増設等、最善の感染症対策を講じられると判断し、式典を無事に挙行した。

▲令和２年度一般会計決算を起立多数で認定

令和２年度　会計別決算額

会計区分		歳入決算額	歳出決算額	残額(翌年度繰越額)
一般会計		32,017,872,026円	31,362,741,635円	655,130,391円
特別会計	国民健康保険特別会計	6,574,228,491円	6,240,535,247円	333,693,244円
	介護保険特別会計	4,615,373,205円	4,380,819,158円	234,554,047円
	後期高齢者医療特別会計	1,334,844,365円	1,306,710,230円	28,134,135円
総合計		44,542,318,087円	43,290,806,270円	1,251,511,817円

下水道事業会計

	収入決算額	支出決算額
収益的収支	1,624,048,796円	1,352,162,099円
資本的収支	364,944,968円	865,924,915円